【山崎名誉主宰の俳句】

その日まで

山崎　聰

陽のまさに落ちなんとして柿の村
みんなが笑うわたしもわらう落葉焚
月の出のはじめみんなで鬼ごっこ
闇にうごく兎の耳のあかいところ
ひとりは寒し闇のなかから目鼻
冬晴れつづけ命終のその日まで
一月一日川むこうから陽が昇る
檻の象かすかにうごき初日の出
たいせつな人いなくなる二日の夢
とおいところにかあさんふたりさくら貝